

令和3年度 埼玉県NPO活動サポート事業 ((株)富士薬品ドラッグセイムス 環境保全支援事業)

助成事業

都市近郊に『緑のオアシス』を造成保全する手法を開発する

助成団体

特定非営利活動法人自然環境観察会

事業内容

- ・緑が減少している都市近郊の自然環境を回復するために、農地や庭、空き地の一角に昆虫や鳥などが棲める『緑のオアシス』をつくり、自然豊かな地域づくりや生物多様性の保全に貢献する。
- ・その成果は展示会および印刷物、観察会、環境学習会などで公表し普及に努める。



春の保全活動



初夏の田植え



生態園、夏の観察 1

都市近郊に『緑のオアシス』を造成保全する手法を開発する



都市の空き地に設置した『緑のオアシス』、餌、蜜源植物約70種を植栽し、チョウ、クモ、鳥などの生き物を温存した。



農村の空き地に設置した『緑のオアシス』、餌、蜜源植物約70種を植栽し、チョウ、クモ、鳥などの生き物を温存した。

事業の成果（NPO自然環境観察会）

- 1) 都市（上尾）と農村（桶川）の『緑のオアシス』に危険でない有用な保全候補種を選定した結果、都市ではナミテントウ、ジャコウアゲハ、トンボ、クサカゲロウなど74種、農村ではジャコウアゲハ、ナミテントウ、アオスジアゲハ、セミ類など70種を選定した。
- 2) 上尾と桶川の『緑のオアシス』に寄主植物（ウマノスズクサ、クスノキ、シロダモ）および蜜源植物を植え、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハを定着させた。またローズマリー、タチヤナギ、ユキヤナギ、ダイオウグミなどを植栽しテントウムシ、カマキリ類、クモ類を保全した。
また上尾ではプラム、サクラ、ウメなどでメジロ、ジョウビタキ、ツグミ、コゲラ、エナガ、モズ、ツミなどを観察、桶川ではヒバリ、キジ、モズ、ジョウゲンボウを観察した。
幸手の『オアシス』ではタヌキも確認した。
- 3) 2021年度の観察数は暖冬年の2020年に比べ減少した。
- 4) 成果は関東昆虫学研究会、専門誌、NPO広報誌（右）、オンライン講習会などで公表した。



今後に向けて

- ・ 都市近郊の空き地の一角に、生活の質を高め有用で、有害でない生き物が集まるような『緑のオアシス』の造成を各地に普及していく。
- ・ 『緑のオアシス』の広報誌発行や観察会、標本作りなどの環境学習は対面やオンラインで積極的に推進していく。